

たまごバンザイ!!

たまご博物館通信

②ホームページで広がるたまごの輪

連載

「たまご博物館」館長 高木伸一

個人ホームページだからこそ業界を横断しています

現在、国内でも多くのホームページが開設、公開されていますが、ホームページは大きく三つの区分に分けられると思います。役所などが公益を目的として公開している「公益のホームページ」、会社の認知度アップや収益向上などを目的とした「企業のホームページ」、主に趣味を目的とした「個人のホームページ」です。

私のホームページ「たまご博物館」は、完全な個人のホームページです。私は「博物館」が大好きで、上野にある国立博物館にも何度か足を運んだことがあります。このため、自分のホームページの名称を「たまご博物館」としました。

「博物館」という性格から、私は自分のホームページに広告バナー（収益や売買を目的としたホームページヘリンクした広告ボタン）類は一切掲載しないことを守り続けています。

個人のホームページは企業の

ものとは異なり、一人で作成していくという大変さがあります。が、いわゆる「しがらみ」がまったくなく、「どこにも（だれにも）縛られない」という強みがあると思っています。ですから、「たまご博物館」内にある「特殊コーナー」のように、メーカー横断的なページを作ることができるので。

「たまご博物館」を作成する上で、気を付けていることがあります。それは、「だれも悪者にならない」（他者を批判しない）ということ。人には、それぞ

高木伸一（たかきしんいち）プロフィール

昭和33年生まれ。出身は広島だが、現在は関東に単身赴任中。コンピュータ関連の会社に勤めている。養鶏業界に大きく関わるきっかけとなったホームページ「たまご博物館」は、たまご好きが高じて1998年に立ち上げた個人ホームページ。大規模養鶏企業の研修や養鶏家のホームページでも引用されるほどの情報量が詰まっており、来館者数（アクセス数）は50万を超えた。また、同名の単行本も執筆、出版されたほか、テレビやラジオ番組などにも出演。

れ自分なりのやり方があり、こだわりがありますから、鶏の育て方（飼育方法）ひとつをとっても、「こうでなければならぬ」ということはない」と思っています。養鶏家の皆さんの中には「特殊卵」（栄養強化卵）に否定的（「何もたまごから摂らなくても」という意見）な方もいますし、有精卵、放し飼い、ウインドウレスか開放か、などに関してもさまざまな意見があります。

それぞれ長所、短所があり、その特徴を生かした生産手法があるものと思っています。

一人でも多くの人がたまご、養鶏に関心を

私はこれまで、消費者としての目（立場）から、養鶏場、GP、孵化場、加工場などを興味深く見学させてもらっています。それを「たまご博物館」の中で

「施設見学コース」として、一般の皆さんに紹介しています。「たまご」は消費者にとって、とても身近な食材ですが、その生産の場や流通の場を知って

る消費者は非常に少ないのが現状です。それを知ってもらうことを通して、もっと「たまご」に興味を持っていただきたいというのを、現在の主な目的にしています。一人でも多くの人

が「たまご」や「養鶏」に対して関心を持っていただければ、と思っています。ホームページ「たまご博物館」

を運営する上で一番大変なのは、質問メールに対する回答です。いただいた質問メールには必ず回答することを心がけています。このため、たまごや養鶏に関する本を参考にしたり、業界誌や業界新聞にも目を通すようにし

ています。文献などを調べても分からないときには、プロである皆さん（養鶏家、全農、鶏卵会社、商社、飼料会社の方など）に聞いて、回答するようにしています。

小学生や主婦からの質問は素朴な質問が多いのですが、このような消費者からの質問は、「こ

ロの方にとっても意外と勉強になるものもあるのではないかと思います。その内容については「Q&Aコーナー」としてホームページ上で紹介しています。

ホームページを通じてさまざまな体験をしています！

近年、「食」に関する世間の関心が非常に高く、テレビ番組や

ブランド名といえば…

今まで集めて（食べて）きたブランド卵は900種を超えました。その中で、気に入っている、思い入れのあるネーミングを五つ紹介します。

◎「かっぱの健卵」（かっぱのけんらん）：私が特殊卵コーナーを作成するきっかけとなった北海道比布町のたまごです。

◎「身土不二」（しんどふじ）：1個が200円もする放し飼い有精卵です。身土不二とは、『身（体）と土とは一つ（不二）であり、生き物とその生態環境は切っても切れない関係にある』との意だそうです。

◎「豪華健卵」（ごうかけんらん）：ダジャレを効かせた面白ネーミングです。

◎「たべてご卵」（たべてごらん）：これもシンプルにダジャレが効いていますね。

◎「富士山の天然水を飲んで育てた地鶏の卵」（ふじさんのてんねんすいをのんでそだったじどりのたまご）：特殊卵コーナーの中で一番長いネーミングのたまごです。最近はこのような長いネーミングが増えています。

特殊卵コーナー

●ブランド卵の紹介

●本コーナーでは、ブランド卵（特殊卵を中心に）を50音順に並べて紹介しています。
●ここに記述している文言は、全て、該当商品のパッケージやパンフレットに掲載されているものであり、私見は入っておりません。
●「抗生物質不使用」等の記述のあるものがありますが、産卵期の鶏には、飼料添加物や添加剤として、抗生物質や合成抗菌剤の使用は原則として認められておりません。

●ア

- 愛鶏園の玉子（あいけいえんのたまご）
 - COOPの「愛鶏園のたまご」
 - 生産者：（株）愛鶏園（神奈川県横浜市神奈川区）、代表者：齋藤富士雄、齋藤太洋、齋藤地平
 - 販売者：COOP（生活協同組合連合会）
 - 99.07.20掲載（海老名市にて購入）
- 金津地鶏のたまご（あいつじどりのたまご）
 - 本物の味とこだわり。幻の地鶏「金津地鶏のたまご」
 - 金津地鶏は、400年以上前から金津地方に飼われており、一時は絶滅したと考えられていたが、昭和62年に数十羽が発見され、日本最後の地鶏と誉われています。「金津地鶏のたまご」は、その金津地鶏を品種改良した大羽金津地鶏（卵、肉兼用）のたまごです。
 - 生産者、販売者：（有）酒井養鶏場（福島県石川郡）
 - 2K.06.25掲載（鹿児島市にて購入）
- 愛農 平飼たまご（あいのうひらがいたまご）
 - 雄、雌共生、放し飼い愛農学園農業高校の「愛農 平飼たまご」。

Q&Aコーナーといえば…

Q&Aコーナーに寄せられた、私が意外に感じた消費者からの質問をいくつか紹介します。皆さんも意外に思いませんか？

まず、「買ったバック中に双子たまご（二黄卵）が入っていたのですが、鶏に『排卵誘発剤』でも使っているんでしょうか？」という質問を何度か受けたことがあります。昔と違って、あまり二黄卵を見かけなくなった今日では、消費者への正しい知識の普及が大切ですね。

続いて「お医者さんから、たまごは1日に1個までと言われてます」。もう一つ挙げると、ゆでたまごで卵黄の表面が暗緑化することは知られていますが、卵焼きでも卵白に含まれている硫黄成分により同様のことが起きたり、ゆでたまごの卵白が薄いグレー色などに変色することがありますが、これに関する問い合わせメールも多く来ます。この場を借りて、消費者から

メールで寄せられた質問のうち、養鶏家の皆さんに直接教えていただきたいことがあります。その質問とは、

①ブランド卵から見ても、養鶏の手法は現在、大きく二分化されていると思います。ウインドウレス鶏舎に見られる「システム化された養鶏」と、逆に昔の自然養鶏を目指した「放し飼い養鶏」や「平飼い養鶏」です。「飼養規模の違い」ということもできますが、養鶏家としては、本当はどちらの道を望んでおられるのでしょうか？（消費者は自然養鶏に興味を持たれている方が多いようですが）

②「どっちの料理ショー」など、テレビの料理番組では「放し飼い有精卵」がよく取り上げられていますが、今後も放し飼い養鶏は残っていくと考えておられますでしょうか？

私のホームページ、もしくは養鶏の友編集部を通してでもけっこうですので、ご連絡ください！

ニュースなどで、たまごに関しても多くのことが伝えられています。このような記事をホームページに取り入れ、常に「たまご博物館」を成長、進化させ続けていきます（時間がとれず、なかなか追い付きませんが）。

「たまご博物館」は、これま

で多くの新聞や雑誌で紹介されました。また、TV番組やラジオへの出演を通じて、生産者と消費者の中立的な立場でのお話をさせていただいています。二〇〇一年四月には、朝日新聞にホームページが紹介されたことがきっかけで、「たまご博物館」

という本が出版されました（まさか、私の本を書くようなことがあるとは夢にも思っていませんでした！）。

私は、このホームページを通じて、このようにさまざまな新しい体験をさせていただくことができました。

平成十年の「たまご博物館」

公開当初に比較すると、現在の

「たまご博物館」の内容は一〇倍以上になっていきます（印刷すると大変な量になります）。私は、この「たまご博物館」を通じて、

業界の方と色々お話しでき、養鶏や卵業について、これまで以上に興味を持つようになりました。私があと一〇歳若いときでしたら、養鶏や鶏卵業界への転職も考えたかもしれません。

先ほども述べましたが、現在の「たまご博物館」の掲載情報量は、非常に多岐にわたっています。

このため、最近になって、たまご博物館の中にある「閲覧室」

というページ（たまご博物館内の掲載項目一覧ページ）にキーワードによる検索機能を設けました。これまでの情報追加（一九九八年の開設以来、更新回数は一三〇〇回を超えました）により、ホームページ全体の規模が大きくなり、どこに何が掲載されているかを探すのに時間がかかるようになったためです。自分でも、目的のデータをどこに掲載したかが分からなくなるくらいです。

「閲覧室」ページのトップにある検索窓にキーワードを入れると、そのキーワードの掲載ページが一覧で表示され、直接、該当ページに行くことができますので、ぜひご利用ください。



次回は、「消費者（私）から見た養鶏／鶏卵業界」についてお話ししたいと思います。

つづく

